

2013年10月22日
南山大学
日本アイ・ビー・エム株式会社
富士通株式会社
日本電気株式会社
株式会社NTTデータ
株式会社日立製作所
株式会社野村総合研究所

大規模システム開発プロジェクトの管理データを組織を超えて一元化

～「次世代プロジェクト管理データ交換アーキテクチャ協議会」による研究開発成果の
第一弾として「PROMCODE インターフェース仕様書」ほかを国内向けに公開～

南山大学、日本アイ・ビー・エム株式会社、富士通株式会社、日本電気株式会社、株式会社NTTデータ、株式会社日立製作所、株式会社野村総合研究所の6社1大学で構成する「次世代プロジェクト管理データ交換アーキテクチャ協議会」(PROMCODE: PROject Management for COnttracted DELivery)は、成果の第一弾としてプロジェクト管理データを組織間で交換するための「PROMCODE インターフェース仕様書」を本協議会のWebページ(<http://lab.nise.org/PROMCODE/>)にて公開します。あわせて、この仕様書に基づき実プロジェクトへの適用を支援する「PROMCODE 適用マニュアル」、「PROMCODE アダプターソフトウェア」とそれを適用した「PROMCODE 実証実験報告書」も公開します。これらの成果によって、ユーザーとベンダー間でプロジェクト管理データを、標準インターフェースを介して一元管理することが可能となり、プロジェクトの開発遅延やコスト超過などのリスクの低減を図ります。

「次世代プロジェクト管理データ交換アーキテクチャ協議会」公式Webページ

<URL:<http://lab.nise.org/PROMCODE/>>

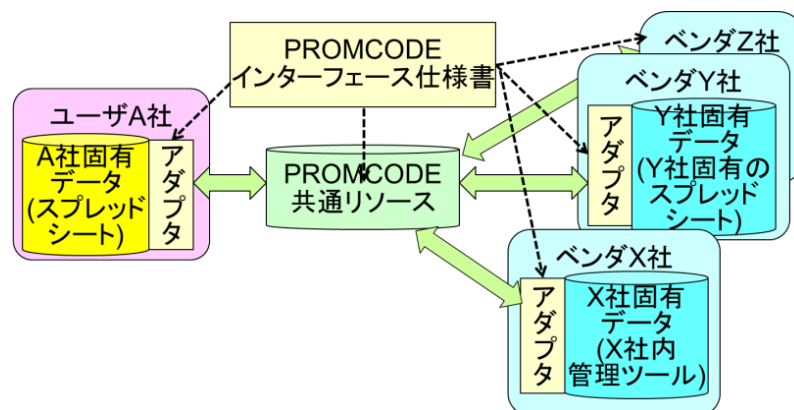


図 PROMCODE インターフェース仕様書を介したプロジェクト管理データの一元管理

本協議会は、ユーザーと複数ベンダーが参画する大規模なシステムインテグレーション(以下 SI)やソフトウェア開発プロジェクトにおいて、ユーザーとベンダー間でのタイムリーで効率的な進捗管理や品質管理を実現することを目的に、組織やプラットフォームによらずプロジェクト管理データを交換できるインターフェースの標準規約を開発してきました。

「PROMCODE インターフェース仕様書」をはじめとする本協議会の成果は、日本における複数組織による多層型の大規模な SI やソフトウェア開発における会員各社の知見を結集したものです。「PROMCODE インターフェース仕様書」は、実際の開発プロジェクトで使用している管理データをもとに策定され、実証実験を通して有効性を確認しています。今後、本協議会では、実プロジェクトへの適用を推進します。これにより、大規模な SI やソフトウェア開発に参画するユーザーとベンダーの関係が、柔軟かつ独立性の高いものとなり、日本の情報産業の革新に資することをめざします。

さらに、オフショア開発の進展などに伴い、グローバルレベルでの複数組織による分散開発は世界共通の課題となっていることから、本協議会の成果を国際規格として標準化することを目指し、OASIS[注 1]に技術委員会(Technical Committee)の設立を準備しています。

■成果物:「PROMCODE インターフェース仕様書」、「PROMCODE 適用マニュアル」、「PROMCODE アダプターソフトウェア」、「PROMCODE 実証実験報告書」について

・「PROMCODE インターフェース仕様書」

異なる組織間でプロジェクト管理データを交換するための標準インターフェースを定めたものです。現場におけるプロジェクト管理の実績に基づき、国際的な知識体系である PMBOK [注 2]などとの整合性を考慮して定めています。

組織間で交換されるプロジェクト管理データのモデルを標準化した「PROMCODE ドメインモデル仕様書」とそのデータモデルを介して各組織で利用している個別の管理ツール間でデータ交換を行うリソースを定義した「PROMCODE リソース定義仕様書」から構成されています。

・「PROMCODE 適用マニュアル」

「PROMCODE インターフェース仕様書」に基づきデータ交換ソフトウェアを開発するガイドとなる「PROMCODE サービス開発ガイド」とそれを現場へ適用するための指針となる「PROMCODE 適用ガイド」で構成されています。

・「PROMCODE アダプターソフトウェア」

PROMCODE インターフェース仕様書に基づいて異なる組織間でデータを交換するためのソフトウェアの実装例です。ソフトウェアツール間のデータ交換インターフェースの標準仕様を目指している OSLC [注 3]に準拠し、Eclipse Lyo[注 4]のオープンソースソフトウェアとして公開します。

また「PROMCODE 実証実験報告書」は、各社がインターフェースの実用性について実証実験により検証した結果を報告しています。

公開する成果物の一覧

1. 活動成果報告書
2. PROMCODE インターフェース仕様書
 - (1) PROMCODE ドメインモデル仕様書
 - (2) PROMCODE リソース定義仕様書
3. PROMCODE 適用マニュアル
 - (1) PROMCODE 適用ガイド
 - (2) PROMCODE サービス開発ガイド
4. PROMCODE アダプターソフトウェア
5. PROMCODE 実証実験報告書

■協議会発足から現在までの歩み

協議会発足から現在まで、次のような活動を進めてきました。

2012年5月21日 :本協議会発足

2012年5月～10月:各社の持つプロジェクト管理の事例や知見をベースに「PROMCODE インターフェース仕様書」などの一連の仕様書の作成

2012年11月 :プロジェクト管理に関する国際会議で成果の発表

2012年11月～ :アダプターソフトウェア開発と各社における実証実験, およびそれを通じた継続的改善

2013年9月 :国内のソフトウェア開発技術に関する主要な会議で成果を発表

本協議会の成果がもたらす具体的な効果と特長

1. タイムリーなデータ共有によるプロジェクトの正確な状況把握

昨今、プロジェクト規模の増大、海外へのアウトソースを含む組織の地理的な分散によりプロジェクトの状況を把握することが困難となっており、プロジェクトの遅延やコスト超過の一因となっています。本協議会の成果により、ユーザーとベンダー間、あるいはマルチベンダーの組織間でプロジェクト管理データをタイムリーに交換でき、プロジェクトの状況が正確に把握可能となります。

2. 人手による作業からの脱却

従来、プロジェクト管理データを交換するために、ある組織で使用しているデータを他の組織で使用しているデータへ変換する作業は人手に頼っていました。そのため、データの交換と収集に時間がかかり、かつ、誤りが混入するおそれがありました。本協議会の成果により、変換と収集がソフトウェアにより自動化されるため、これらの課題が解消されます。

3. 実証実験により実用性を確認

協議会各社における実証実験を通して、成果の実用性を確認しています。例えば、1つのプロジェクト内で、様式の異なる管理ツールや管理帳票が混在したとしても、全体集計帳票を統一的な様式で集計することが、この技術によって比較的容易に実現できる見込みを得ています。

4. 国際標準に基づいたオープンな仕様

PROMCODE インターフェース仕様書の用語についてはプロジェクト管理知識体系 PMBOK との整合性を考慮しています。さらに、この中でリソース定義仕様書は、データ交換の仕様 OSLC に準拠しています。OSLC は、情報システム技術の国際標準 OASIS での標準化が予定されています。このように、本協議会の成果はオープンな標準に基づいており、特定の技術やベンダーによらず利用可能です。

5. アダプターの提供により IT 技術者でなくても利用可能

現場で広く使われている Excel®形式のプロジェクト管理データを PROMCODE インターフェース仕様書で定めている形式に変換するソフトウェアを提供します。さらに、この変換のルールも Excel®で指定ができるため、IT の専門知識をもたなくても利用が可能です。

6. アダプターソフトウェアはオープンソースとして、誰でも利用可能

データ交換ソフトウェアの実装例をオープンソースソフトウェアとして Eclipse Lyo 上で公開しますので、誰でも利用可能です。

■国際標準化に向けた OASIS 技術委員会の設立の提案

本協議会は、PROMCODE インターフェース仕様書を世界的に普及させるため、情報技術の国際標準規約を制定している非営利団体 OASIS 内に技術委員会(Technical Committee)を設立し、グローバルでオープンな標準の制定を目指しています。この技術委員会は、本年 5 月に OASIS 内に設立された OSLC に関する標準化を行う技術委員会の集まりである OSLC メンバーセクション配下に設置されることを目標としています。

(参考)「次世代プロジェクト管理データ交換アーキテクチャ協議会」について

本協議会は、ユーザーと複数ベンダーが参画する大規模 SI やソフトウェア開発プロジェクトにおいて、ユーザーと複数ベンダー間でのタイムリーで効率的な情報管理を実現することを目的に、2012 年 5 月 21 日に発足しました。組織やプラットフォームによらず、進捗管理や品質管理などのデータを交換できるインターフェースの標準規約を確立するための技術の開発と検証を進めています。

■OSLC からのエンドースメント

PROMCODE コンソーシアムの活動により、OSLC の活動が新たな業種や地域への広がりや、OSLC 利用のためのオープンソースの強化などでインパクトを与えているのは、素晴らしいことです。OSLC コミュニティーは、PROMCODE に参加する業界の専門家の経験から恩恵を受け、OASIS の標準化活動の推進をさらに進めることができると期待します。

OSLC コア・ワーキング・グループ・リード
W3C リンクド・データ・プラットフォーム・エディター
エクリップス・リオ・プロジェクト共同リード
スティーブ・スパイカー

■タスクトップからのエンドースメント

ソフトウェアデリバリーが多くのサプライヤーが参加して行われるケースが増えていますが、世界中の企業がその管理に苦労しています。PROMCODE は、最大で百を超えるサプライヤーが関わるソフトウェアサプライチェーンを管理してきた日本企業の貴重な経験を提供してくれます。PROMCODE の知見やアイデアは、OASIS での OSLC の標準化活動の推進に貴重な貢献をしてくれるものとして、個人的に非常に興奮しています。

タスクトップ CEO
ミック ケルンステン

【注釈】

注 1: OASIS(Organization for the Advancement of Structured Information Standards) [オアシス] Web 上で、クラウドコンピューティング、セキュリティーなどの情報システム開発のための業界標準を策定する非営利団体です。65 か国以上から 6,000 を超える組織・個人が加入しています。詳しくは下記の Web ページをご覧ください。

OASIS Web ページ: <https://www.oasis-open.org/org>

注 2: プロジェクト管理知識体系 PMBOK(Project Management Body Of Knowledge)[ピンボック]
非営利団体 PMI(Project Management Institute)が策定したプロジェクト管理に関する知識の体系です。詳しくは、下記の Web ページをご覧ください。
一般社団法人 PMI 日本支部の Web ページ: <https://www.pmi-japan.org/>

注 3: OSLC (Open Services for Lifecycle Collaboration) [オーエスエルシー]
Web 上でソフトウェア基盤環境(OS、ハードウェアなど)によらずソフトウェア開発のデータを交換するためのインターフェース仕様を定めている非営利団体です。OSLC の成果を国際標準とするために、OASIS 内に OSLC メンバーセクションが 2013 年 5 月に設置されました。詳しくは、下記の Web ページをご覧ください。
OSLC Web ページ: <http://open-services.net/>

注 4: Eclipse Lyo [エクリプス リオ]
OSLC の仕様に基づくソフトウェアを Eclipse 上のオープンソースとして公開しています。詳しくは、下記の Web ページをご覧ください。
Eclipse Lyo Web ページ: <http://eclipse.org/lyo/>

■他社所有商標に関する表示

・記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

《その他のお問い合わせ》

南山大学 情報理工学部 ソフトウェア工学科 TEL: 0561-89-2081

日本アイ・ビー・エム株式会社 ダイアル IBM TEL: 0120-04-1992

富士通株式会社 SI 技術本部 開発基盤統括部 TEL: 03-6424-6068

日本電気株式会社 SI・サービス技術本部 TEL: 03-3798-6375

株式会社NTTデータ 技術開発本部 丹羽 TEL: 050-5546-2532

株式会社日立製作所 情報・通信システム社 プロジェクトマネジメント統括推進本部

幕田、伊野谷 TEL: 03-5471-2333

株式会社野村総合研究所 生産基盤サービス部 坂田、能登 TEL: 045-336-7341

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
